

スペイン・ポルトガルの旅

1996 年 2 月

イベリア航空で Madrid 到着

我が人生をずっと残すつもりはないが記録があるからこのままにするのも勿体ないので 2025 年 1 月 26 日、日曜日、晴天の冬の陽光が二階の窓に差す昼前にそのノートを転記。14Mhz の OM さん達（103 歳の方との和文交信したというお話など）ののんびり口調の懐かしい話を（狸ワッチ）聞きながら。。

この文書を読むときはまた違う心境で開くだろうか。

内容

2 月 27 日(木) AM7 : 35.....	1
2 月 28 日 (金)	2
2 月 29 日(土) —3 月 1 日 (日)	2
3 月 2 日(月).....	2
3 月 3 日 (日)	3
3 月 4 日 (月)	3
3 月 5 日 (火)	3

42 歳の旅メモ 1996 年 2 月 25 日～6 日の一部のみ 3～6 p

2 月 27 日(木) AM7 : 35

あと 30 分ほどでリスボン Novolte Hotel を出発予定

楽しいリスボンの自由時間を楽しんだ。地図 2 枚を頼りに 3 人（名古屋の 2 人）で市内を回った。歩いたり、タクシー（510+チップ 100esc）・・・午後 4 時 30 分頃、ホテル到着。水道橋を撮影、市場でビール、ケーキとお茶（350esc）、昨夜熊本へ電話した 5 分ほどだったが幾らだろう。FAX は前払いで

1300esc だった。あとはロカ岬（ここで観光バスがベンツと衝突などハプニングがあったり、岬の郵便局で来たという証明書を貰ったり）、お城、教会を夜には哀愁あふれるファドを楽しんだが、それはガイドブックに乗っているので省略。そんな訳で快速でポルトガルにおさらばをした。

2月27日（木） 午後 11：55 記載

ポルトガルからスペイン国境をこえてのバス移動の途上、オリーブ畑、草原、集落、古水道などを観た。昼食はレストランにて。宿泊はセビリアのホテル。HIPERCOR で買い出し。テープなどを買う。夜はフラメンコ舞踊をみた。凄い動き、二人の歌い手、周りの手拍子、などウキウキするような気持ちで感動した。ホテルに帰って風呂に入ろうと蛇口をまわすが水が出ない。イタリアの学生の修学旅行生が騒がしい。夜遅くまで大声で騒いでいたので、なかなか眠れない。

2月28日（金）

セビリアのホテルでは学生が喧しかった。朝食を食べあがってきて記入中。TV3 ch は忍者服部くんのあと「ドラえもん」が放送されている。表題は日本語そのまんま。「いつでも日記」「電話のおぼけ」

グラナダ観光へ 花の小径で写真を撮る、散歩中に古本を売っていた 2 冊で 500pst。アンダルシアのカセット、人形、絵はがきなど買う。

2月29日(土) —3月1日（日）

カルメンホテルに宿泊。3月になってしまった。花粉症状がひどい朝になった。今日から旅の後半戦となる。毎日沢山食べては観光に励む。自分にこんな体力が残っていたのかと自身で驚いている。

3月2日(月)

Madrid で 2 日目の夜を迎える。昨日は 4 人でビールを飲んだ。4800pst。トレドに観光へ行った。街ではギター弾きの学生の演奏を聴きながら夕食（リブ） 今日とは別の店で 3 人（東京・名古屋・熊本）でビールを 6000pst で。

3月3日（日）

午前中市内観光、午後セゴビア観光。プラド美術館へ。ゲルニカなどを観る。売店で小さなゲルニカを購入
夕食後 3 人で街中で珈琲を飲む。

3月4日（月）

Madrid からバルセロナへ飛行機で移動。到着したら迎えのバスが来ないので 2 時間ほど空港で待った。
連絡違いか？。ガウディの建造物見学。塔に登った。いつも写真で見慣れた建物なので感慨。写真を撮り
まくった。フィルム切れて売店で FUJI フィilm 1 本買う。ホテルのテラスにて白赤ワインを 3 人で飲みながら
スペイン最後の夜は旅の話題が多く出た。

3月5日（火）

4 時半起床 5 時 15 分荷物を出した。6 時前 10 分 あと 30 分で出発。早朝 TV をつけると郷ひろ
み出演の映画をやっていた。アメリカ映画 カウボーイの話。スペイン語の吹き替えで全く違和感なし。
Hesperial Hotel を出ると旅は終わる。私は旅のことを忘れて又日常生活に戻るだろう。42 の人生の
節目にこの旅をどう総括しようか。

42 歳の旅メモ 1996 年 2 月 25 日～6 日の一部のみ

1996 年 3 月 1 日

アドロの歌が流れるバスの中、山岳地域を走る路は狭い。砂埃を立てて山々にはオリーブの木と砂地が
現れる。窓の外は青、山の頂きは峠に見える。旅好きな団体客を乗せて走る。アンダルシア地方からラマン
チャ地方へ駆け抜けてゆく。空は青く 彼らのことを思う。生きて苦しんでいる O さん（彼女はがんで入院し
ていた）。死んで苦しみを抜け出ようとした彼ら（私の友人に自死した二人がいた）。私は 3 人のことをこ
の道中で考えている。やがて M の 4 周忌、そして Y の 3 周忌。何を考えても悔やんでも人生だ。

よく知っている曲のテープが流れる車内、私は一人で座席に腰掛け、彼らの人生を考えている。山の頂上
付近に家々が立ち並ぶ。（午前 9 時）ここは平地より 20 km 山の奥、感激すべき風景が並ぶ。広
い高速道路に出た。鉄道が通っている。

私は何故に生きている、如何に生きるべきか これでよいのか、様々なことを思われる長旅である。山々と木々、土と緑、音、光、私に最高の恵みを与えてくれるスペイン路。三月の初日、この土地で自由を味わう旅に送り出してくれた妻よ、子ども達よ。ありがとう。

人はどう生きようと同じならば、この解放感をしっかり味わおう。他人のために生きるのではなく、自身のために生きること。音楽も out of word 言葉がいかに分からずとも、人の声が聞きたくなるものだ。ここは異国、人は人の間で生きてゆくものかも。

J e a n バイレン 9時31分通過。トイレ休憩はコルドバの交差点にて。Lamancha

乾いた土地。ドン・キホーテの哲学的物語。カンポデクリプターナ

今日はちょっとした作家気分。血圧アップの様だ。右目の眼底出血の時はこれでもう我が人生終わりかと思っていた。それから1年、不死鳥のようにスペインの旅に出ている私である。絶望の先には、また希望が現れるような気がする。

小さな自分を強制される日本／空は広く、大平原が続くラマンチャを走る。アラトビアを走行中、直進 120 kmは M a d r i d、右上 P a n e r o・・・の標識。

自分が自分であるということ、その存在はこの世では一回しかない。なのに人は他人の気持ちになぜ左右されなければならないのか・・・ある人は死を選び、一生を終えた。やがて桜の季節だ。Mが逝った頃になる。誰にも左右されずに生きることは難しいかもしれない。

がそれでも自分の思うことを少しでもやるべきでは。

直線道路を行く 左側に まっすぐ伸びた木が道路に向かって直角に並列し突っ立っている。
Ventadeljoki/（綴りがおかしいが）/風車がやがてある。11：30 madridへ208 km 11：41
あと181 km ＊プエルト＊ ＊ラプーサ 301 km campo de criptana では大きな風車があり、
写真撮影に夢中になる。

1996年3月2日

この数日で、すっかりスペインに魅了されてしまった。現在セゴベアを目指してバスは走行中、山は雪が積もり頂では雲に霞全体像を現していない。午後3時20分 道路際まで雪がポツポツと残る。昼食はレストランで、ニンニクたっぷりのソースをつけた硬めの肉。とてもおいしく いつもの四人でビールとワインを飲んで、その後皆眠り込んでいる。

3月3日 夜11時

T Vで本日の選挙票速報をやっていた。画面で運転手は「民主党に入れたという。社会党はだめだ、もう終焉だ」と党首がP S O EのD i s c a rが嬉しそうに発言している、

もうマドリッド最後の夜だ、7 F（9階）710号室のベランダの方には強い風が吹いている。時折救急車が大きなサイレンを鳴らして通り過ぎる。フロリダノルテの夜は更けてゆく。食事ののちコーヒーをホテル備えのを飲む。岐阜県と東京の二人と一緒に、

3月4日からはバルセロナに入る。聖家族教会に登る。ガウディの作品が市内あちこちで見かける。そのすごさに圧倒される。

2月23日 福岡 法華クラブ で前泊

旅程 1996年2月24日 福岡発 JAL380 7:25 成田発 IB6710 MAD

25日 Madrid→Lisbon ・二日間でベレンの塔、シントラ、ロカ岬など見学

ポルトガルの FADO を楽しんだ リスボンのレストラン TIPICO にて



26日 Lisbon 泊（Novotel Lisboa）

27日 セビリアでフラメンコショー セビリア泊

28日 カテドラル 花の小路 古本市 コルドバ泊

29日 アルハンブラ宮殿 カルメン前のデパート見学、BAR で勝負 グラナダ
Hotel Carmen

3月1日 午前8時54分出発 ラマンチャのカンポデクリプターナ

ドンキホーテに登場するメニューを再現した料理を昼飯に マドリッド泊

2日 マドリッド泊 トレド観光へ

3日 マドリッド泊 セゴビア観光へ

4 日 バルセロナ泊 バルセロナ観光

5 日 バルセロナ発 バルセロナ→マドリッド→モスクワ空港経由成田へ

6 日 成田着 10:45 羽田へバス移動 福岡着 熊本へバス

8 日出勤

補足

スペインへの興味：スペイン語の思い出

中南米の音楽 フォルクローレ 希望ヶ丘診療所時代 キラパジュン、グラシャラスサーナーの音楽との出会い。

全然身につかなかった第二外国語でとったスペイン語の講師は岡村一さんで *ドンキホーテの訳本があった。最近ネットで調べると・・

ドン・キホーテ[前・後篇] (セルバンテス全集) 単行本 - 2017/3/21 ミゲル デ・セルバンテス (著), Cervantes (原著), 岡村 一 (翻訳), 本田 誠二 とある。

スペインへの旅があったことで様々なことに踏ん切りをつける事が出来たような気がする。青い空 (Cielo AZUL) は常に頭上にあり、例え雨の日や雪の舞う寒い日でも必ずその雲の上には青空が存在する。それから 50 歳になって購入した山の中のギャラリーを AZUL という名前にしてしまった。お客様こそないが、今は私にとっては大事な居場所となっている。草刈りは大変だが汲み上げる湧き水は美味しい。時折木々の上に青空がある。

.40 年経ってからの感想

当時の同僚に対しては 12 日も職場を開けてすまなかったが、20 年勤務の褒美が「休暇」だった。今はどうなっているか分からないがその貴重な休暇を使っの 30 年前の旅は楽しかった。娘が今年 40 となるというので・・娘は 10 歳頃だったか。当時の私の年齢間近だ。みんな多忙な中で共働きの妻にはご免というしかない。断捨離の時期を迎えて断片的な記録は捨てようと思ったが、自分の過去の遺物を生きて居る間いつでも見える私のアーカイブに放り込んでおこうと思う。